

# 「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 31 年 4 月 5 日

仕 事 の 内 容	実施計画策定事務			
担当部署・課長名	企画	課	企画担当	係 課長名 荒井亮二

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。		施 策 番 号	行 - 2	-
【施策名】 効率的でスリムな行財政運営の実現		総合計画書 (ページ)	122	ページ

予算名	款 2 総務費	項 1 総務管理費	目 7 企画費	事業 1 企画業務費
-----	---------	-----------	---------	------------

1 この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 第四次基本計画に掲げた目標の達成と新たな行政需要に的確に対応するために市が行う事業(主要事業)	→	① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) 主要事業として選定した事業数(平成31年度~平成33年度)
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 主要事業として選定した事業について、今後の予算編成指針とするため東大和市実施計画に掲載する。	→	② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) 東大和市実施計画(平成31年度~平成33年度)に掲載した主要事業の数(3か年別)
	③ そのために何をしましたか。 主要事業の選定、財政収支及び財源確保の検討、実施計画策定を行うにあたり、企画財政部内会議、各部ヒアリング、各部個別調整等を実施した。	→	③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) ①企画財政部内会議開催回数 ②各部ヒアリング実施回数 ③各部個別調整等実施回数

		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度目標	平成32年度目標
2 指標の推移	対象指標	①の数値	事業数	①(29年度)91事業 ②(30年度)85事業 ③(31年度)76事業	①(30年度)95事業 ②(31年度)91事業 ③(32年度)81事業	①(31年度)103事業 ②(32年度)94事業 ③(33年度)82事業	
	成果指標	②の数値	事業数	①(29年度)91事業 ②(30年度)85事業 ③(31年度)76事業	①(30年度)95事業 ②(31年度)91事業 ③(32年度)81事業	①(31年度)103事業 ②(32年度)94事業 ③(33年度)82事業	
	目 標	②の目標値	事業数				
	目標値設定の考え方						
活動指標	③の数値	人	①5 ②1 ③随時	①5 ②1 ③随時	①6 ②1 ③随時		

3 経費	事業費(実績)		円	8,730	5,097	7,120	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,244,000円 時間単価は、4,200円 で計算してください。 【算出根拠】平成29年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)
	財源	一般財源	円	8,730	5,097	7,120	
		特定財源	円	0	0	0	
		(うち受益者負担)	円	0	0	0	
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.25	0.25	0.25	
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0	
		職員人件費(再任用以外)	円	2,066,750	2,063,250	2,061,000	
	職員人件費(再任用)	円	0	0	0		
事業費+人件費		円	2,075,480	2,068,347	2,068,120		

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。 基本計画に掲げた目標の達成と新たな行政需要に対応することを目的として、毎年度ローリングによる見直しを行っている。併せて、3年間の財政収支の予測を行い、財源確保の取組を併記して、より実効性の高い計画としている。	
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。 厳しい財政状況が続いており、財政収支の見通しにおいて、財源の不足が増加している。	

仕 事 の 内 容	実施計画策定事務			
担当部署・課長名	企画	課	企画担当	係 課長名 荒井亮二

5 市民等の意見	この仕事に関して、平成30年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について		
	特になし		

6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択。（複数回答可）		
	取組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ） ⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）
	(2)平成31年度に向け、さらに適した協働の形態とするための「考え」又は「気付いた」点		

7 課題	(1)「平成29年度に実施した仕事」の振り返りシート 「7 課題(2)」の内容  歳入の大幅な増加を見込むことができない中で、経常経費の増加や取り組むべき主要事業も増加しており、第四次基本計画に掲げた目標の達成と新たな行政需要に的確に対応するために、効果的かつ効率的な事業の選択が必要である。		
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成30年度に実施したこと。  厳しい財政状況の中、効果的かつ効率的な事業を選択するため、事務の効率化が図れるような事業や、市全体の歳出削減や歳入増加が見込める事業を選定した。また、事業の整理・統合を図るなど、費用対効果を踏まえた検証を行い、経費の削減を図った。		
	(3)(2)を踏まえた今後の課題  今後も、厳しい財政状況の中、第四次基本計画に掲げた目標の達成と新たな行政需要に的確に対応するために、効率的で効果的な事業の選択が必要である。		

8 今後の方向性	(1)仕事の方向性（「7 課題(3)」の課題解決に向けた具体的な改革・改善案など） 各事業担当課において、効果的かつ効果的な事業実施に向けて、徹底した既存事業の見直しや新規事業における費用対効果の分析等を行う。		
	(2)上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等  既存事業については、施策評価や事務事業評価、市民ニーズの分析結果（市民意識調査、アンケート等）に基づき、内容の見直しを図るとともに、徹底した経費削減等を行う。また、新規事業については、市民ニーズの分析結果（市民意識調査、アンケート等）を把握するとともに、民間活力導入（委託、指定管理者、PFI等）や類似事業との整理統合等について十分検証を行い、事業内容を検討する。また、併せて、事業実施のための財源確保の方法を検討する。		
	(3)改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。		
成果	成果を向上させる。		経費 仕事の経費は維持する。